

V 教育課題

第11分科会

環 境

■ 研究課題 ■

自然環境を大切に作る心と実践力を育てる環境教育と校長の在り方

分科会の趣旨

科学技術の驚異的な進歩による経済活動の拡大や人口増がもたらす環境破壊は、自然のもつ復元能力をはるかに超えている。今、地球環境の悪化が大きな課題となっている。環境汚染や異常気象、自然災害の多発、中でも地球温暖化は、人類の生存に係る課題である。環境破壊の抑止、生物多様性の保全等の地球環境保全の考えに立ち、自然環境の保護・整備や循環型社会の形成に向けた意識改革が望まれている。

このような現実をはっきりと認識し、持続可能な社会をつくる人間と環境との関わりについて、子どもたちに地球的視野で考えさせることが大切であり、次代を担う子どもたちに期待する役割や教育に委ねられている期待は大きい。子どもたちが、かけがえない地球環境の保全に取り組む意欲・能力を身に付ける教育の推進が望まれている。

そのためには、子どもが体験活動等を通して身近な環境や生活から環境問題について考え、人間と環境との関わりについて理解を深め、正しい知識や見方・考え方を身に付けることが大切である。さらに、自然と共生するため、環境保全への実践的な態度や能力を身に付けるとともに、身近なところから環境問題の解決に向けた具体的な行動をとり、積極的に取り組んでいく子どもを学校・家庭・地域・関係機関等と連携して育成していく必要がある。

本分科会では、自然環境を大切に作る心と環境保全のため主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育てる環境教育推進に果たす校長の在り方を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 教科・領域等との関連を図った、環境教育の推進

自然環境を大切にしようとする子どもの意識と意欲を育てるためには、身近な環境問題に関心をもたせ、問題を見出し、考え、判断し、より良い環境づくりや環境の保全に主体的に取り組む態度と能力を育成することが大切である。

そのためには、総合的な学習の時間を中心に各教科、道徳、特別活動などとの関連を図った環境教育を全校体制で推進していく必要がある。

こうした学校全体で取り組む環境教育の推進と学校の指導体制づくりにおける校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 多様な体験的な活動を通し、実践的態度の育成の充実

環境問題を学ぶに当たり、子どもたちが自分は被害者であると同時に加害者にもなり得るという認識をもって、環境に配慮した循環型の生活に転換することの大切さに気付くことが必要である。

また、環境問題は、子どもの日常生活と密接な関係にあることから、食育や生活との関連を図った体験的な活動を重視し、問題解決的な学習や実践的な活動に積極的に取り組むことが大切である。さらに、体験的な活動を通して、家庭・地域・関係諸機関との連携を一層図りながら、学校や地域の特色を生かした環境教育の展開と環境の保全に主体的に取り組む態度と能力を育てる実践的な活動を推進しなければならない。

こうした環境教育の実践的活動の充実に果たすべき校長の役割と指導性について究明する。

地域の自然・産業等，特色を生かした 環境教育の推進と校長の役割

空知地区 美唄市立峰延小学校 吉田 政和

I 趣 旨

地球温暖化をはじめとして、様々な環境問題が深刻化する中において、健全で恵み豊かな環境が地球規模から身近な地域まで保全されるとともに、それらを通じて世界各国の人々が幸せを実感できる生活を享受でき、将来世代にも継承することができる社会をつくることが求められている。

学校教育においては、持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成が急務であり、特に小学校においては環境への豊かな感受性を高め、体験的な活動を通して、課題発見と解決の実践力、行動を通じた思考・判断力といった力を身に付けさせることが重要である。

各学校においては、地域の自然に働きかけたり、地域の動植物に着目し、総合的な学習の時間などを活用しながら、ねらいに迫ろうとする学習活動が展開され、環境問題に関心を寄せたり、地域のゴミ拾いなどの活動を通して実践的な態度を育ててきている。

その一方で、市町村レベルでゴミの分別の取組が進められ学校内でも、給食の後片付けに分別作業が取り入れられたり、校内でゴミリサイクル運動を推進したりし、環境問題への関心を高めようとする取組も見られているが、学校全体の教育活動としての位置付けが明確ではなかったため、単に体験としてとどまっている例も多数見られた。

本市においては、ラムサール条約登録湿地「宮島沼」を有し、野鳥の保護や湿地の保全など、環境問題に関わる取組を推進してきた。また、農業体験学習を通して自然や地域のよさにふれ、そこから学ぶ「美唄市グリーン・ルネサンス推進事業」が各学校で展開されている。

美唄市校長会としては、これらの諸課題の解決とこれまでの環境に関わる特色ある取組を充実・発展させ、目指す子どもたちを育成するため

- ① 環境教育のねらいを明確にすること
- ② 教職員の共通理解を図ること
- ③ 各活動が教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間と有機的な関連を図ること

を柱とし、リーダーシップを発揮しながら、その改善に向けた取組を推進することとした。

II 研究の概要

美唄市校長会は、現時点における子どもたちの将来へ向けた環境に関しての一般的な傾向、環境教育推進の実態を踏まえて、基本主題「地域の自然・産業等，特色を生かした環境教育の推進と校長の役割」を設定し、平成24年度から3か年計画で研究を進めてきた。研究の推進に当たっては、基本主題を受けた二つの視点と、それぞれの具体的研究内容を挙げ、実態調査の分析により課題解決の方向性を見出し、校長としての役割と指導性の明確化を図ろうとした。また、空知校長会とも連携し、研究の進捗状況報告や交流を図りながらの研究成果を蓄積してきた。

1 視点と研究内容

- (1) 身近な環境に目を向け課題解決力を育む学校経営

子どもが自分なりに問題を見付け知識や技能を高め、生涯にわたって自然や社会を大切にする能力を育む環境教育の推進と校長の役割・指導性について考える。

- ① 環境教育推進のための学校体制の整備・充実と校長の関わり
- ② 校種間の連携を図る教育活動の推進
- ③ 家庭・地域・関係機関との連携による環境教育の推進

- (2) 美唄市グリーン・ルネサンス推進事業を活用し、実践力を育てる学校経営

子どもが農業の実体験を通じ環境に対する理解を深め、日常生活で実践していく能力や態度を育てる計画的・体系的な環境教育の推進と校長の役割・指導性について考える。

- ① 地域人材を活用する環境における指導の充実と校長の関わり
- ② 地域に根ざした環境における指導（教育活動）の充実

2 研究推進の概要

- (1) 美唄市内各校における環境教育について実態調査を行い、現状を把握するとともに、調査結果の分析と実態交流により校長会としての共通課題を設定し、解決の方向性について検討する。

- (2) 校長会としての共通課題の他に、各校の実態を踏まえて各校の課題と研究推進計画を樹立し、課題解決に向け実践する。
- (3) 各校の実践事例及び進捗状況について定期的に交流を図る。
- (4) 先進的な取組事例の分析を通し、課題解決の方策を考えるとともに、校長としての役割と指導性を明らかにする。

3 研究推進計画（3か年計画）

- (1) 24年度の研究（1年次）
 - ・教職員の意識改革
 - ・環境教育の基本的事項の確認
 - ・環境教育についての実態調査
 - ・基本主題、副主題、推進の視点の確立
 - ・共通課題の設定と研究推進計画の樹立
- (2) 25年度の研究（2年次）
 - ・各校研究推進計画の構築
 - ・進捗状況の交流と課題解決方向性の修正
 - ・推進の重点の設定と推進計画の修正
 - ・先進的な取組事例の研究
- (3) 26年度の研究（3年次）
 - ・実践交流
 - ・成果と課題の明確化
 - ・校長としての役割、指導性の明確化

4 研究の内容

- (1) 実態調査

実態調査は、市内の小学校（5校）中学校（4校）を対象に①環境教育についての推進状況②環境教育の実情をとらえる内容で実施することとした。また、それぞれに「学校経営」「教育活動」「家庭との関わり」「行政の関わり」という観点で、環境教育について25項目の設問を設定し、到達度方式（一部記述方式）で行った。
- (2) 課題設定と解決の方策

環境教育の実態については、美唄市校長会としての環境教育の基盤を構築するために中学校の現状についても調査した。しかし、学校規模や地域性による違いがあるため、校長会としての共通課題を設定するとともに、学校の実態に応じた解決策を図り、各校における具体的な実践を行うこととした。また、毎月行われる校長会研修時には取組の進捗状況について交流し、効果的な具体策や成果と課題の明確化を図った。

 - ① 教師の環境教育に対するより一層の理解と指導力の向上を目指すために、基本方針の明確化を通して環境教育の必要性・重要性について教職員の理解を促進する。また、研修を

充実させ、教師の意識改革と実践的指導力の向上を図る。

- ② 環境教育については、各教科との関連や学年別指導計画が未整備であったため、全体計画を整備するとともに総合的な学習の時間における年間指導計画に学年間のねらいを位置付け実践を深める。
- ③ 環境教育に対する教職員の意識や指導力は未だ高いとは言えないことから、地域人材を活用した授業を構築し、教職員の子どもに対する環境教育の意識の向上を図る。
- ④ 学校におけるエコ活動や栽培などの体験活動を積極的に導入し学習環境を整備するなど、子どもや保護者の環境教育に対する意識の啓発を行う。
- ⑤ 家庭生活における生活行動、並びに保護者の意識についてはつかめていないので、学校評価などを活用して子どもの家庭生活における実態を把握するとともに、保護者の意識啓発のためにも情報の積極的な提供と学習の機会を拡充していく。

(3) 実践事例

- ① A校の実践（全体計画の作成と教職員の意識改革）

A校では、これまでも環境問題に関わる取組が進められてきた。運動会の事前のゴミ拾いや自然に興味・関心を高める自然体験学習など行われてきた。とりわけ「みんなで楽しむ会」という集会活動においては、リングプルをお金として使い、各学年が趣向を凝らしたお店を出店し、学年を超えて楽しむというものであった。しかしながら、これらの行事は、それぞれのねらいを達成するよう実施されてきた。

本研究を進める上で、改めて既存の教育活動を見直し、環境教育のねらいを明確にした全体計画の改善・充実を図ったところ、例えば、2学年の生活科において、これまで学校周りの「たんけん」だった活動が、美唄市の「宮島沼」まで目を向け、郷土の自然や環境に気付かせる教育活動として変化していった。また、前述の「みんなで楽しむ会」においても、「リングプルをどうして集めるのか」の事前指導や出店を片付ける時のごみの量を減らす取組を追加するなど、より環境に目を向けた取組となるなど教職員の意識が変わっていった。

- ② B校の実践（特色ある教育活動）

B校では、既存の特別委員会を活用し教育課程の位置付けや各全体計画における学年の

ねらいを踏まえ見直しを図った。その中で、環境教育に関わる研修を設定し、管理職からの資料提供により、理解促進と教職員の実践力の向上を図ってきた。

また、管理職自ら公務補の協力を得て敷地内の沢を整備してきた。その姿を見ていた児童は、手伝いの輪を徐々に増やしてきてくれた結果、教職員の意識・意欲の向上に結び付き、学校としての課題と解決策や共通理解の重要性を認識させることができた。

今年度の取組として、既に全児童と教職員による春の清掃活動が行われ、秋の清掃活動と落ち葉を利用した焼き芋集会在が計画されている。

このことに合わせて、PTAとしても清掃活動を実施することになった。また、おやじの会も発足に向けて計画中である。

家庭における実践に結びつける意味でも、学校評価などに家庭での生活習慣についての項目を入れたり、便りを通してその重要性についての情報を提供したり、PTA主催の活動や研修会・講演会などの導入を図っていく必要があると考えている。

③ C校の実践（小中連携）

C校の中学校区では、これまでPTA主催の小中合同交流会を実施してきた。昨年度からは一歩進め、授業参観交流や算数科のTTなどを行い、連携を深めてきている。今年度については、年間計画を交換し合い指導計画の交流を行い、小・中学校と地域ボランティアの連携を深める観点から、校区内の清掃活動を行ったところである。

また、総合的な学習の時間の全体計画を見直し、各全体計画と関連させ、年間を通して計画的に推進できるよう改善した。

④ D校の実践（グリーン・ルネサンスとの関連）

D校では、ハスカップの栽培を通して地域の農業に対する理解を深める取組を行っている。学校の敷地内で保護者からの提供によるハスカップの苗木を栽培し、1年間を通して栽培の工夫などを地域の方から学ぶことで自然と生活との関連を理解し、環境を守ることの大切さを学んでいる。同校のスクールキャラクター「ハスカッピー」と共に「ハスカッピー農園」として子どもたちに親しまれ、観察や収穫などに活用している。

③ E校の実践（グリーン・ルネサンスにおける小高の連携）

E校では、食育やキャリア教育との関連を

重視したハスカップの栽培・収穫体験学習を行っている。また、地元の高校との連携で、地域の教育環境を生かした環境・食育学習における授業交流やジャム作り実習に取り組んでいる。それらの活動を活かして、共同でハスカップジャムを製品化し、札幌地下歩行空間での販売体験も行った。

美唄市の特産品をPR販売する取組の一環として開催しているものである。実際に自分たちが作った製品を販売することで、地域の自然や産業に対して関心を深めることができている。

III ま と め

1 成 果

- (1) 全体計画を整備・改善したことにより、環境教育のねらいが明確になり、これまでの教育活動全般の見直しが図られた。
- (2) 環境教育とともに食育やキャリア教育との横断的な学習の推進を経営方針に位置付け、課題の明確化、及び具体的な解決・改善策に基づいた計画的・継続的な取組により、地域や家庭と連携した教育活動が推進されてきた。

2 課 題

- (1) 環境教育の推進に当たっては、各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間などにおける問題意識や環境づくりに関連する学習内容相互の緊密な連携を図り、横断的・総合的な指導の充実を図ることが重要である。
- (2) 環境教育の推進については、学校から家庭・地域への啓発が行われているが、より一層の効果を上げるためには、家庭の理解と協力、家庭における子どもへの指導が不可欠であり、今後とも家庭・地域への積極的な情報提供や啓発活動を継続していく。

校長のリーダーシップが学校、家庭及び地域全体の意識向上へと取組の活性化に与える影響は極めて大きい。そこで校長は、自らが環境教育の重要性を認識し、環境教育を学校運営の基盤の一つに据えるとともに、学校、家庭及び地域社会との連携を強化した組織体制の整備・充実を図っていくことが重要である。